

## 旭川市立神居東中学校第2学年 外国語科 学習指導案

日 時 令和7年10月16日(木) 5校時

生 徒 旭川市立神居東中学校2年2組 37名

指導者 白井 千貴

## 1 単元名 「Unit 5 What design is good for everyone?」

## 2 単元について

## (1) 本単元に関わる学習指導要領の目標および内容(抜粋)

## 【学習指導要領】～外国語科の目標と内容～ (第2学年)

## 1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1の(3)に示す資質・能力を育成する。

## (1) 聞くこと

- ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。
- イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。
- ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。

## (2) 読むこと

- ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。
- イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。
- ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

## (3) 話すこと

- ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。
- イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。
- ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。

## (4) 話すこと

- ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。
- イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。
- ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。

## (5) 書くこと

- ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。
- イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。
- ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

## 2 内容

## (1) (ウ) 文法事項

## 不定詞の用法

疑問詞+to (what to do, how to use, where to go など)

## 形容詞+that 節

主語+be 動詞+形容詞+that (I am glad that..., I am sure that... など)

## 3 内容の取扱い

(3) 教材については、次の事項に留意するものとする。

ア 教材は、聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成するため、1に示す五つの領域別の目標と2に示す内容との関係について、単元など内容や時間のまとまりごとに各教材の中で明確に示すとともに、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した題材を取り上げることを。

## (2) 生徒の実態

学級内では学力の二極化が顕著に見られる。上位層の生徒は自主的に学習を進める意欲と能力を有しており、自分のペースで学習を進めることができる。一方、下位層の生徒は基礎的な語彙や文法に課題があるものの、級友や教師との協働学習において意欲を示している。これらの生徒は段階的な支援により理解度の向上が見られ、級友や教師の支援を受けながら計画的に学習を進めることが可能である。そのため、個別最適な学びの実現に向けて、生徒が学習方法や学習形態を自己選択することを重視している。上位層の生徒には自分のペースに合った計画や学習を促し、下位層の生徒には級友や教師の支援を受けながら計画的な学習を支援している。

本時では、オンライン画面上での文字の交流を中心とした活動を行う。Padletを活用した投稿・コメント活動により、他者の表現方法や評価の仕方を可視化し、他者参照ができる環境を整える。このような環境設定により心理的安全性を確保し、下位層の生徒を含めた全員が積極的に交流活動に参加できる授業の実現を目指す。

### 3 単元の目標と評価規準

#### (1) 単元の目標

- ・だれもが暮らしやすい社会について考え、英語で表現することができる。
- ・だれもが暮らしやすい社会について考え、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、英語で伝えることができる。
- ・だれもが暮らしやすい社会について考え、自らの学習状況を把握し、必要な学習内容を自ら選択・実行・評価するなど、学びを自己調整することができる。

#### (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①【知】〈疑問詞+to〉を用いた文や〈主語+be 動詞+形容詞+that〉の文の形・意味・用法を理解している。 ②【技】〈疑問詞+to〉を用いた文や〈主語+be 動詞+形容詞+that〉の文の理解をもとに、どのようにしたらよいか、確信やうれしいことなどについて書く技能を身に付けている。	①だれもが暮らしやすい社会について考え、その方法などについて伝えるために、ユニバーサルデザインについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えている。	①だれもが暮らしやすい社会について考え、その方法などについて伝えるために、ユニバーサルデザインについて、自分の学びを適宜振り返りながら、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えようとしている。

### 4 単元の指導計画と評価計画

#### (1) 単元のねらいと研究内容1との関わり

##### ①児童生徒が主体的に学ぶための課題設定と見通し

本単元は、ユニバーサルデザインについて考える単元である。本文を通じてユニバーサルデザインの考え方への理解を深め、あらゆる人の立場に立ち、全ての人暮らしやすい社会を考えさせる学習とする。

本単元の課題は、宿泊研修で見つけてきたユニバーサルデザインの魅力を、SNS という限られた文字数の中で困っている外国人に分かりやすく伝えようとした際に、簡潔で分かりやすい表現の方が読み手にとってよいことに気付くことから始まる。既習事項の文法だけでは「どのようにしてエレベーターを使うことができるか」といった冗長で分かりにくい表現や「～できる」を多用してしまうことで本当に大切な情報を判断しづらく、読み手に必要な情報が伝わりにくい。日本語では「エレベーターの使い方」のように簡潔に表現できるのに、英語でも同様に情報を整理して短く伝えられないかという疑問から、「疑問詞+to」という表現の必要性に気付かせる。

また、困っている外国人への返信という場面では、相手意識をもった内容を考えることが必要である。文字でのやりとりで相手の表情が分からない中で、「～なのは嬉しい」「～だと確信している」といった感情や意見、その理由を自然につなぐ表現「形容詞+that」が困っている相手を安心させるために効果的であることに気付かせる。これらの新たな文法を学び、実際の SNS 返信の場面で活用することで、困っている外国人を効果的に助けられる表現力を身に付けていく単元とする。

##### ②児童生徒が資質・能力を身に付けるための自己選択と学び合い

生徒は、既習事項をもとに単元の学習課題を解決しようとするが、よい表現方法が見つからずに行き詰まりを感じると考えられる。そこで、生徒に学習課題の解決のために、何を学ぶべきか、どのような技能を身に付けるべきか、どう学ぶかを考えさせる。通年で行っている「ミッションシート」を活用し、音読や単語、文法などを身に付けるために、自分にとってどの学習方法が適しているのかを自己選択して学習を進めていく。その際に、自身の学習の到達度を客観視しながら学習を進め、自らの学びを調整する。

また、会話やオンライン上でのやりとりや Padlet を活用した他者参照などの協働的な学びを通じて、学習内容を更に深め、多様な表現にふれて、全員が困っている外国人を助けることができるように環境を整える。

##### ③児童生徒が学びの価値を感じる振り返り

第2時から第8時では「ミッションシート」を通して、教科書の内容や新出単語、文法を理解できるようにする。この期間では、第1段階（選択肢から選ぶ）、第2段階（自分なりの工夫を加える）、第3段階（自己設計）へと生徒の自律性を段階的に高めていく。特に「疑問詞+to」や「形容詞+that」の文法事項については、教科書の例文理解から始まり、ペア活動での練習、個人での応用練習へと発展させる。「ミッションシート」での各時間の振り返りを通して自己調整力を育み、「なぜそのミッションを選んだか」「何がうまくいき、何が課題か」「次は何をどう変えるか」といったメタ認知を促す問いかけで、自律的な学習者としての基盤を築いていく。第9時では理解度テストを行い、第2時から第8時で身に付けた学習内容を総括的に評価する。理解度テスト後も、自分の「ミッションシート」を振り返り、学習方法の効果を評価させ、第10時から第12時の表現活動に向けて、今まで学んだことや身に付けたことを、どう活用するかを考えさせる。第1時で単元全体の見通しをもたせているが、ここで大切な視点を改めて確認し、困っている外国人への返信活動を通して、より良い表現や他の生徒の表現を参照し、「疑問詞+to」や「形容詞+that」の有用性を実

感させる。既習事項だけでは冗長になってしまう表現が、新しい文法を使うことで簡潔で分かりやすくなることに気付かせる。

(2) 単元計画 (12 時間)

研究内容 2 との関わり

可視化の意図

発問の意図

○指導に生かす評価●記録に残す評価

時数	○教師の働きかけ ・「教科の特質を生かした発問」	○生徒の学習活動 ・「予想される反応」	知	思	主	
1	<p>○SNS上で外国人が書いた「北海道に来て、～を心配している」という架空の投稿を見せる。</p> <p>2つの投稿を提示し、直感的にどちらが読みやすいと感じるか問うことで、簡潔に分かりやすくまとめる良さに気付かせる。</p> <p>・「もしあなたが困っていたら、どちらの投稿をまず見るだろう？その理由は？」 “If you have troubles, which do you check, A or B? Why?”</p> <p>A よく見れば、簡単な表現が使われているものの、長く回りくどい文章。同じ表現が何度も使われ、大切な情報がどこにあるのか見つけにくい。</p> <p>B 簡潔で分かりやすい文章。簡潔にまとめられているので大切だと思われる情報を絞りやすい。</p> <p>文法上は、既習事項を使っても表現することが可能であるが、より違った表現方法で返信できることを理解させる。そして、「簡潔で分かりやすい」ことが、単元の学習課題を解決するための視点となることに気付かせる。</p>	<p>○2つの投稿を確認し、どちらの投稿をまず読むと思うか選び、理由も考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「B…読みやすそうだから」</li> <li>・「B…短くて時間がかからなさそうだから」</li> <li>・「B…Aは読むのが面倒そうだから」</li> <li>・「A…簡単な表現が使われているから」</li> </ul>				①
	<p>○日本語訳も同様に提示し、英語でも日本語でも言語として、「短くスッキリした文章が読みやすく、分かりやすそうだ」という視点を与える。</p> <p>○「簡潔で分かりやすい文章」といえるのは、どの部分か考えさせる。 ※既習事項の「疑問詞」が、今まで疑問文の文頭でしか使われなかったが、今回は文中にあることを気付かせる。</p> <p>○単元の軸となる視点「簡潔で分かりやすい」をつかむ。 →日本語訳を提示する活動の中で、日本語のネイティブ（生徒）としての感覚も含めて考える。</p> <p>○「簡潔で分かりやすい文章」になっている要因に気付く。 ・「文の途中で疑問詞 (how, where) がある。いままで疑問文でしか使われなかったのに。」 ・「文の最初にあるのが疑問詞じゃないの？」 ・「how to ～って何？」</p> <p><b>単元の課題：私たちの住む北海道にあるユニバーサルデザインをSNSで発信しよう</b></p>	<p>○単元の概要と授業計画を確認させ、今後の見通しをもたせる。 →単元計画 (WS) を配付し、各時間の流れを確認させる。 →流れに沿って、どんな資質・能力を身に付けるべきか自己判断させ、学習方法や順序を自己選択させ、「ミッションシート」を作成する。 ※理解→定着→使用の必要性を意識させる。 ※適宜学びの振り返りを行わせ、学習方法や順序を絶えず見直すことを説明する。</p> <p>○今後の見通しをもつ。 →自らが学習すべき内容、身に付けるべき技能を自分で判断し、自らの学びをデザインする。 ※今までの学習の傾向を考える。理解することだけでなく、実際に英語を使用するためには定着させることが必要なことを理解する。</p>				
2 3 4	<p>○「ミッションシート」を活用して、教科書の内容（基礎・基本）を理解・定着させながら、自分でさまざまなユニバーサルデザインについて表現できるようにさせる。</p> <p>Part 1 &amp; Part 2 「困っている人を助けるためにあなたはどのように声をかけますか？」 “How do you approach people in need to help them?”</p>	<p>○これまでの単元の学習と同様にミッションシートを使いながら学習を進め、ユニバーサルデザインについて表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の基本構文の文法的理解</li> <li>・新出単語の理解と発音</li> <li>・教科書の長文の理解と音読</li> </ul> <p>“How do you use this machine?” → “I will show you how to use it.” “Where is a staff room?” → “I can show you where to go.” “Where is Tozai Line?”</p>	①	①	①	

	<p>ここで使う表現は、単元末の活動で使うことができるので、使えるようになった表現として振り返りで記録させる。</p> <p>→ “I will tell you how to get to the station.”</p>				
	<p>「困っている人を助ける」という目的・場面・状況において適切な表現に気付かせる。Part 1, Part 2 で学ぶ表現が役立つことに気付かせ、様々な場面・状況に応じて適切な表現の選択や再構築を促すことで深い学びを目指す。</p>				
	<p>Read and Think 1 &amp; 2</p> <p>・「困っている人を安心させるためにどのような声かけをしますか？」</p>	<p>・ “It’s OK.”</p> <p>・ “Good luck.”</p>	①	①	①
	<p>これまでに学習してきた「簡潔で分かりやすい」という視点に加え、「困っている人を安心させる」という目的・場面・状況において適切な表現に気付かせる。相手の表情が見えない文字でのやりとりの中で相手意識（思いやり）をもつことの重要性に気付かせる。また、Read and Think 1 で学ぶ表現が、文章にしたときにも相手を安心させるために役立つことに気付かせ、様々な場面・状況に応じて適切な表現の選択や再構築を促すことで深い学びを目指す。</p>				
5 6 7 8	<p>○いくつか例を提示し、文章表現の違いによって与える印象が変化することに気付かせる。</p> <p>A 指示やアドバイスのみ</p> <p>B 指示やアドバイスの前後に相手を思いやる文を加える</p> <p>※単元末（10・11 時の）の活動（返信活動）をもう一度提示し「文字でのやりとり」だということを確認させる。</p> <p>※文字でのやりとりのため相手の表情が分からない。困っている（不安を感じている）相手を文字でどのように安心させるか考えさせる。</p>	<p>○例を見ながら、文字を書いた人の表情や感情を予想する。</p> <p>・「Aは冷たい感じがする。」</p> <p>・「Aは感情が分かりにくい。」</p> <p>・「Bは相手のことを安心させようという気持ちが伝わる。」</p> <p>・「Bを書いている人は笑顔だと思う。」</p>			
	<p>○例文の中のどの表現が相手を思いやっているように感じるか気付かせる。</p>	<p>○相手を思いやっている表現に気付く。</p> <p>・「“happy” って書いてあるから、いい内容かも。」</p> <p>・「“glad” はうれしいっていう意味だよ。来てくれてうれしいみたいな意味かな？」</p>			
	<p>○「ミッションシート」を活用して、教科書の内容（基礎・基本）を理解・定着させながら、自分でさまざまなユニバーサルデザインについて表現できるようにさせる。</p>	<p>○これまでの単元の学習と同様に「ミッションシート」を使いながら学習を進め、ユニバーサルデザインについて表現する。</p> <p>・教科書の基本構文の文法的理解</p> <p>・新出単語の理解と発音</p> <p>・教科書の長文の理解と音読</p>			
9	理解度テスト	○テストに取り組む。	①	①	
10	<p>○課題を確認させる。</p> <p>○課題を確認する。</p> <p>課題：安心して日本旅行を楽しんでもらえるよう、困っている外国人の投稿へ返信しよう。</p> <p>○今まで学習した内容を確認する。</p> <p>「困っている外国人を SNS の返信で助けるためには何が大切だろうか？」</p> <p>○ミッションシートを活用して、これまでの学びをもとに、困っている外国人への返信内容を考えさせる。</p> <p>○困っている外国人への返信内容を考えさせる。</p> <p>→「簡潔、分かりやすい、安心」を黒板にまとめる。</p> <p>→「ミッションシート」の振り返りを見ながら文章を考えても良いことを伝える。</p> <p>○考えた文章を Padlet に投稿させる。</p> <p>○自分が学習した内容を振り返る。</p> <p>・「簡潔」 ・「簡単」 ・「分かりやすい」</p> <p>・「相手を思いやる」</p> <p>○困っている外国人への返信を考え、Padlet に投稿する。</p>				①

11 本時	<p>○前時の活動について交流させ、SNS で表現するために簡潔で分かりやすい表現を考えさせる。 【単元のまとめ】 ○架空の SNS 上で表現をさせる。 ○表現させた内容について、「いいね」とコメント機能で、友達が表現した文章を理解し、交流を図らせる。</p>	<p>・前時の活動の交流を行い、SNS で表現するために簡潔で分かりやすい表現を考える。  ○架空の SNS 上で表現活動をする。 ○友達が表現した文を読解し、「いいね」やコメント機能で反応する。</p>			
12	パフォーマンステスト	○パフォーマンステストに取り組む。	②	①	①

5 本時の学習（12 時間扱いの 11 時間目）

(1) 目標

困っている外国人を助けるためにユニバーサルデザインの視点を持ちながら、事実や自分の考え、気持ちを、簡単な語句や文を用いて伝えることができる。

(2) 学習評価

【態】困っている外国人を助けるために、相手意識を持ちながら、事実や自分の考え、気持ちを、簡単な語句や文を用いて伝えようとしている。

(3) 本時のねらいと研究内容 2 との関わり

①教科の特質を生かした発問について

- ・「SNS 上で簡潔で分かりやすく表現するにはどうすれば良いのだろうか。」
- ・「文字のやりとりの中で、相手を安心させるためにはどうすれば良いのだろうか。」

第 10 時で「簡潔」「分かりやすい」「相手意識」の 3 つのポイントを意識し「困っている人を助ける」という目的・場面・状況での適切な表現は何かを考えながら、困っている外国人の投稿への返信を行うが、この段階では生徒個人が考える「簡潔さ」や「分かりやすさ」をもとにした表現となり、本単元で学んだ表現が表出されないことも予想される。

そこで、本時では上記の 3 つのポイントを改めて提示し、本単元で学んだ表現とそれらのポイントの関連を意識させることで、より適切な表現の仕方に焦点化させる。疑問詞を使用しなくても、文法上では、ユニバーサルデザインについて表現することは可能である。しかし、疑問詞を使用することで簡潔かつ読み手にとって分かりやすく、必要な情報を見つけやすい文章で伝えることができるということを実感させたい。

②思考を束ねる可視化の手立てについて  
【Padlet】

返信を Padlet に投稿させる。返信をモニターに投影する形で、多様な表現や他者評価を可視化（他者参照）することで、良い表現を判断させ、新たな学びや気づきを促す。



(5) 展開

過程	○教師の働きかけ ・「発問」	○生徒の学習活動 ・「予想される反応」
<p>導入 10分</p>	<p>○あいさつする ○課題を確認させる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">課題：安心して日本旅行を楽しんでもらえるよう、困っている外国人の投稿へ返信しよう。</p> <p>・「Unit 4 のポイントは何ですか？」</p> <p>○次の活動（友達の返信を読みコメント）への視点を3つ提示する。 ①簡潔で分かりやすいか？ ②相手意識をもっているか？ ③適切な英語が使用されているか？</p> <p>・「SNS 上で簡潔で分かりやすく表現するにはどうすれば良いのだろうか。」 ・「文字でのやりとりの中で、相手を安心させるためにはどうすれば良いのだろうか。」</p>	<p>○これまでの学習の中でどんなことを重点に置いてきたか確認する。</p> <p>・「簡潔に分かりやすく。」 →「疑問詞+to が使われていた。」 ・「安心させる。」 →「be 動詞+形容詞+that を使っていた。」</p>
<p>展開 30分</p>	<p>○前時に考えた他者の返信内容に対して、コメントやアドバイス、質問をさせる。 →3つの視点で「どの表現がなぜ簡潔で分かりやすいのか。」「どの表現に相手意識が見られるのか。」「正しい文法、単語で表現できているか。」などをコメントさせる。 →「いいね。」「簡潔です。」「分かりやすい。」だけで終わらせないよう、良いコメント内容を例として提示する。 →共通する課題等があれば全体で適宜共有する。 →多く評価されている文を全体で確認し、「この文が多くの人に評価されているということはどういうことだろう。」という発問を通じて良い表現を判断できるよう促す。 ※他者評価、学び合い</p> <p>○他者からのコメントやアドバイス、質問を読ませ、新たな気づきや学びを促す。 ※他者参照</p> <p>○改善した返信内容を Padlet に書き込み、交流させる。 ※学び合いのための手立て</p> <p>○課題が早く終わった生徒には、他の外国人の投稿についての返信を考えるように伝える。</p>	<p>○他者の返信内容を読み、コメントやアドバイスをする。（質問も可能） ・「I will tell you how to go to Maruyama Zoo.」の表現があることで、その次の内容が動物園への行き方であることがすぐ分かって、分かりやすかった。」 ・「The station staff will tell you where to go.」が簡潔で分かりやすかった。」 ・「I'm sure that you can enjoy Hokkaido.」が相手を安心させると思う。良かった。」 ・「I'm happy that come to Japan.」 that の後に you が必要だと思う。誰が日本に来てうれしいのか分からないと思う。」</p> <p>○他者からのコメントやアドバイス、質問を読み、使ってみたい表現、役に立ちそうな表現、単語を記録する。</p> <p>○記録した表現や単語などを使って、自分の返信内容を変えてみたり、他の困っている外国人へ返信したりする。</p>
<p>終末 10分</p>	<p>○他者が書いた完成版の返信内容が3つの視点に沿って書かれているか考えさせる。</p> <p>○以下の2点について、本時の学習を振り返らせる。 ①何を学び、できるようになったか。 ②パフォーマンステストに向けて何をするか。</p>	<p>○他者が書いた完成版の返信内容を評価する。 →3つの視点に沿っていれば「いいね」をする。</p> <p>○振り返りを行う。 ①何を学んだか。何ができるようになったか。 ・「簡潔に分かりやすく伝えることができたと思う。疑問詞+to が役立つことが分かった。」 ・「相手を安心させるために“I'm sure that ～.”の表現を正しく使うことができた。」 ②パフォーマンステストへ向けて。 ・「パフォーマンステストでも“I will tell you how to ～.”の表現を使いたい。」 ・「いろいろな投稿でも対応できるようたくさんの表現を覚えたい。」</p>

参考資料

(1) 単元計画



(2) 「ミッションシート」(Unit 4のもの)

Mission Sheet ~ Unit 4 ~		前半	後半		
Goal	ルールやマナーについて、友達とスラスラと会話できるようにする。 業務について説明する文法を身につけよう。	前半	後半	パフォーマンステスト	
	ミッション内容	チェック	日付	評価	教習でやること
1	英→日	<input type="checkbox"/>		A	例 6/20 英→日、英(英音) Part 1 Q & A, Part 2 Q & A
2	日→英	<input type="checkbox"/>			
3	英(英音)	<input type="checkbox"/>			
4	Part1ワーク	<input type="checkbox"/>			
5	Part1英作文(ノート半ページ)	<input type="checkbox"/>			
6	Part2ワーク	<input type="checkbox"/>			
7	Part2英作文(ノート半ページ)	<input type="checkbox"/>			
8	R&T1ワーク	<input type="checkbox"/>			
9	R&T1英作文(ノート半ページ)	<input type="checkbox"/>			
10	R&T2ワーク	<input type="checkbox"/>			
11	R&T2英作文(ノート半ページ)	<input type="checkbox"/>			
12	Part1 Q and A	<input type="checkbox"/>			
13	Part1 音読(5回以上)	<input type="checkbox"/>			
14	Part2 Q and A	<input type="checkbox"/>			
15	Part2 音読(5回以上)	<input type="checkbox"/>			
16	R&T1 Q and A	<input type="checkbox"/>			
17	R&T1 音読(5回以上)	<input type="checkbox"/>			
18	R&T2 Q and A	<input type="checkbox"/>			
19	R&T2 音読(5回以上)	<input type="checkbox"/>			
20	Unitのパフォーマンステストに向けて友達と英語で交流	<input type="checkbox"/>			
21		<input type="checkbox"/>			

単元計画や「ミッションシート」を振り返り、本単元で何をどのように学んで何を考えたか、過去の自分と対話し表現に生かす。

単元デザイン案 中2 外国語科 「Unit 5 What design is good for everyone?」

単元の目標

- ・だれもが使いやすいものや、暮らしやすい社会について考え、英語で表現することができる。
- ・だれもが暮らしやすい社会について考え、その方法などについて英語で伝えることができる。
- ・だれもが暮らしやすい社会について考え、自らの学習状況を把握し、必要な学習内容を自ら選択・実行・評価するなど、学びを自己調整することができる。

時数	○教師の手立て・「発問」	○生徒の学習活動・「予想される生徒の思考」	知	思	態
1	○SNS上で「北海道に来て～を心配している」という投稿を見せる。 →2つの投稿を提示し、直感的にどちらが読みやすそうに感じるか問う。 「もしあなたが困っていたら、どちらの投稿をまず見るだろう?その理由は?」 A よく見れば、簡単な表現が使われているものの、長く回りくどい文章。同じ表現が何度も使われ、大切な情報がどこにあるのか見つけにくい。 B 短くスッキリした文章。簡潔にまとめられているので大切だと思われる情報を絞りやすい。 ○単元内容の概要と授業計画を確認させ、今後の見通しをもたせる。	○2つの投稿を確認し、どちらの投稿をまず読もうと思うか選び、理由も考える。 「Aを読みます。理由は読みやすそうだから。」 「Aを読みます。短くて時間がかからなさそうだから。」  ○単元の軸となる視点「簡潔で分かりやすい」をつかむ。  ○今後の見通しをもつ。			①
<b>単元の課題：私たちの住む北海道にあるユニバーサルデザインをSNSで発信しよう。</b>					
2	○「ミッションシート」を活用しながら教科書の内容(基礎・基本)を理解・定着させながら、自分でさまざまなユニバーサルデザインについて表現できるようにさせる。	○これまでの単元の学習と同様に「ミッションシート」を使いながら学習を進め、ユニバーサルデザインについて表現する。 ・教科書の基本構文の文法的理解 ・新出単語の理解と発音 ・教科書の長文の理解と音読 “How do you use this machine?” → “I will show you how to use it.”	①	①	①
3	Part 1 & Part 2				
4	「困っている人を助けるためにあなたはどのように声をかけますか?」				
5	Read and Think 1 & 2		①	①	①
6	「困っている人を安心させるためにどのような声かけをしますか?」	○安心させるためにどのような声をかけるか考える。 “It’s OK.” “Good luck.”			
7					
8	○いままで確認してきた「簡潔で分かりやすい」という視点に「安心できるような」という新たな視点を加える。 ○ミッションシートを活用しながら教科書の内容(基礎・基本)を理解・定着させながら、自分でさまざまなユニバーサルデザインについて表現できるようにさせる。	○これまでの単元の学習と同様にミッションシートを使いながら学習を進め、ユニバーサルデザインについて表現する。 ・教科書の基本構文の文法的理解 ・新出単語の理解と発音 ・教科書の長文の理解と音読			
9	理解度テスト	○テストに取り組む。	①	①	①
10	課題：安心して日本旅行を楽しんでもらえるよう、困っている外国人の投稿へ返信しよう。				①
11	○今まで学習した内容を確認する。 「困っている外国人を SNS の返信で助けるためには何が大切だろう?」 ○困っている外国人への返信内容を考えさせる。 ○前時の活動の交流を行わせ、SNS で表現するために簡潔で分かりやすい表現を考えさせる。	○自分が学習した内容を振り返る。 ・「簡潔」 ・「簡単」 ・「分かりやすい」 ・「相手を思いやる」 ○架空の SNS 上に投稿した、困っている外国人に対して返信を考え、Padlet に投稿する。			
12	パフォーマンステスト	○パフォーマンステストに取り組む。	②	①	①
知識・技能			主体的に学習に取り組む態度		
①【知】〈疑問詞+to〉を用いた文や〈主語+be 動詞+形容詞+that〉の文の形・意味・用法を理解している。 ②【技】〈疑問詞+to〉を用いた文や〈主語+be 動詞+形容詞+that〉の文の理解のもとに、どのようにしたらよいかや、確信やうれしいことなどについて書く技能を身につけている。			①【思】だれもが暮らしやすい社会について考え、その方法などについて伝えるために、ユニバーサルデザインについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えている。		
			①【態】だれもが暮らしやすい社会について考え、その方法などについて伝えるために、ユニバーサルデザインについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えている。		